

第17回上海大学対抗ゴルフ大会

在上海日本人ゴルフファーにとっての一大イベント「第17回上海大学対抗ゴルフ大会」が5月22日、28日、29日の3日間にわたり「シルポートゴルフクラブ」で行われた。熱闘の結果をお伝える。



38チームを招き、二度目の優勝を果たした近畿連合

近畿連合 3年ぶり2回目 V JAL杯は関西から動かさず



司会を務めた
馬場さん(左)と
吉富さん(右)

波乱多い展開

シルポート中・東コースで行われた今回の大学対抗ゴルフは28日、29日と雨が降り続け、出場者いわく「これまで経験のない天気」の下で行われた。悪天候下でのプレーとあってスコアを崩す選手も続出。少人数チームの九州大学、商船大学連合が入賞する一方、同じく少人数ながら昨年上位に食い込み注目を浴びたチームが大きく順位を落とした。また、駐在員の帰任や異動によりメンバー集めに苦労するチームが増えるなか、筑波大学、専修大学が初参加。筑波大学は初出場にして翌年の幹事校と

なるなど波乱含みの展開となった。

神戸連覇ならず 2位に食い込んだ慶応

優勝のJAL杯を手にしたのは近畿連合。複数校による連合チームながら、過去に出場5回中優勝1回、2位2回という強豪は前回の2位からさらに歩を進め、再度栄光に輝いた。14人中80台の2人を含めて10人が100を切り、悪天候にかかわらず実力を見せている。前年優勝校の神戸大学は前回の25人を大きく上回る32人で参戦。70台、80台も含めて過半数の20人のスコアが100未満。最後まで連覇への期

待がかかり、成績発表式では優勝校の指定席、最前列中央にてJAL杯を囲み氣勢を上げていた。続々と順位が発表されていき、残すは3位、2位、優勝のみという場面で3位に決定した時の神戸の脱力ぶり、優勝が決まった瞬間、



第1位で喜び近畿連合



出場 6回目 / 過去最高順位 優勝
登録人数 14名 集計対象 10名
NET 75.18



「六甲おろし」を高らかに歌い上げた



| 集計対象 | 氏名(敬称略) | Gross | HDCP | Net |
|------|---------|-------|------|-------|
| ○ | 加藤連章 | 93 | 20.4 | 72.6 |
| ○ | 中西慶太 | 85 | 12.0 | 73.0 |
| ○ | 吳安文武 | 95 | 21.6 | 73.4 |
| ○ | 柳瀬祐記 | 94 | 20.4 | 73.6 |
| ○ | 佐藤正剛 | 91 | 16.8 | 74.2 |
| ○ | 伊福元彦 | 84 | 8.4 | 75.6 |
| ○ | 榎村宏章 | 95 | 19.2 | 75.8 |
| ○ | 藤島之 | 89 | 12.0 | 77.0 |
| ○ | 竹村憲夫 | 90 | 12.0 | 78.0 |
| ○ | 大羽敏文 | 111 | 32.4 | 78.6 |
| | 宮藤康浩 | 98 | 19.2 | 78.8 |
| | 由井幹人 | 103 | 24.0 | 79.0 |
| | 村本博一 | 102 | 20.4 | 81.6 |
| | 池田亮 | 145 | 36.0 | 109.0 |

実力輝く連合チーム 再び優勝杯手に

出場6回目の連合チームながら屈指の実力を誇り、二度の優勝に輝いた。「これまでに雨が続いたなか、各メンバーが大崩れせず耐えて耐えて頑張った結果、運のよさもあって最高の結果につながったと思う」とメンバーら。

JAL杯と共に年間対抗戦「勇者の翼シリーズ」トロフィーも授与され、カップに注がれた優勝のシャンパンを堪能。場を沸かせた。校歌斉唱では連合チームとして「六甲おろし」を熱唱した。次回は幹事校として連覇を狙う。



森本義博 JAL 上海地区首席代表による優勝杯授与

近畿連合の冷静なさまから一気に喜びが爆発する様子は注目を集めた。最大人数47人を送り込んだ早稲田大学に次ぐ45人の選手が参加した慶応はライバルを上回り、昨年の5位から2位に順位を上げたものの、カップには一步及ばず来年の雪辱を誓った。

興奮の成績発表

600人が集まる「お祭り」をしめくくる成績発表会とあって、その力の入



惜しくも2位となった慶応大学

れようもひとしお。手の込んだオープニングムービーは昨年の大会の様子や今回プレーを前に勝利への意気込みを見せたり雨の中戦いを繰り広げたりといった各選手の姿、さらには帰任者も日本から登場して大いに場を沸かせた。さらに外せないのが司会の活躍。前回優勝校、神戸大学の馬場直樹さんと37位の横浜国立大学の吉富順平さんが司会を務め、スケジュール通りのイベント進行と参加者を楽しませる話術で参



意気込みを燃やす神戸大学

加者から絶賛されていた。

今回の参加者は総勢512人。チーム数は89と前回から1チーム増えている。多少の数の増減はあっても海外にあって日本人が中心となり開催されるコンペとして指折りのものに間違いはない。3日間にわたる激闘は今年も大変な盛り上がりの中にお開きとなり、各選手は次回第18回大会への闘志を新たにしていた。

大学対抗ルール

- ①1チーム5人以上、チームスコアのみで競う団体戦。個人賞はなし。国籍を問わず日本の大学で学んでいたOBが参加できる
- ②優勝校にはJAL杯が授与され、上位5位のチームは壇上で校歌を歌うことができる
- ③優勝校とブービー校が次回大会の幹事校となる

2. 慶応義塾大学



出場 17回目 / 過去最高順位 優勝
登録人数 45名 集計対象 27名
NET 75.40



優勝及ばずも45人参加に意義 次回カップを

第1回大会から連続参加し、2連覇二度の強豪校。今回は全チーム中2位の規模となる45人の選手を送り込んだ。残念ながら優勝にはもう一步届かなかったが、前年から3つ順位を上げ、「多くのメンバーが参加してくれたことに意義がある」とコメント。「来年こそ優勝」と雪辱を誓う。グロス100未満が全体の約半分23人と健闘。あと数人のメンバーが100を切るようになれば優勝の可能性が高まると予測している。

4. 九州大学



出場 2回目 / 過去最高順位 4位
登録人数 9名 集計対象 7名
NET 76.00



単独出場2回目の躍進 九州校と喜び分かち合う

前回より九州連合チームから独立。単独校での出場2回目にして入賞の栄誉を勝ち取った。1年間共に練習を重ねてきた西南学院大学、九州連合の力なくしてあり得ないと両チームと一緒に校歌を歌い上げた。「強い九州をアピールできたと思う」とのコメントが印象深い。「粘り強いゴルフを心がけた」結果、ハンデもうまくはまったと分析する。次回目指すのは「必ず優勝。練習とメンバー集めに精を出す」。

3. 神戸大学



出場 16回目 / 過去最高順位 優勝
登録人数 32名 集計対象 20名
NET 75.66



今回は JAL 杯奪還 盛り上がり優勝級

前回の25人を上回る32人で参戦した。雨のなかグロス成績はまずまずで、連覇への期待が高まるも、ダブルペリアに涙をのんだ。もっとも「運を味方につけるのも面白いところ」「発表式では最前列に陣取りみんなで騒いで楽しかった」と大会は満喫。改めて来年の優勝を目指す。前回初の優勝を飾り、今大会の幹事校を務めた。横浜国立大学と協力しての司会進行は参加者に絶賛され、「ほっとした」と一息。

5. 商船大学連合



出場 8回目 / 過去最高順位 優勝
登録人数 11名 集計対象 8名
NET 76.20



復活果たした海の男 合併「今しばらく」

母校が統合し、卒業生が増えないなか、新メンバー3人を「発掘」。「学校の性質から荒天、風雨に強いとの自負はあった。見事な舵さばきならぬクラブさばきで海の男ここにありを証明できた」とにんまり。初出場の第10回で3位、続く11回で優勝の古豪復活を事前の宣言通り果たした。神戸商船大学と統合した神戸大学から合併の噂があるが、「今しばらく猶予を」と返答。来年も海の男たちだけで大海原へ赴く。

6 学習院大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 11 回目 / 過去最高順位 6 位 |
| 登録人数 | 9 名 集計対象 7 名 |
| NET | 76.23 |

今回は初校歌を

同志生の数が少ない上に数人が帰任した一方、新規のメンバーも加入。全員が安定したスコアで回れ、ハンデにも恵まれた。グロス70台を安定して計上するエースとの相乗効果もあり、昨年より2つ上、過去最高タイの8位に付けた。ただ、5位に届かず「今回も悔しい思いをした」。来年こそは「初の校歌を歌いたい」と誓う。

7 関西大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 16 回目 / 過去最高順位 2 位 |
| 登録人数 | 9 名 集計対象 7 名 |
| NET | 76.49 |

“出来過ぎ” 順位確保

第2回大会以来連続で出場している古株は第12回に記録した2位に次ぐ成績をマーク。いわく「出来過ぎの順位」は「ブービーにしなければと思っていただけ、ハンデに恵まれた」結果だという。他チーム同様メンバーの帰任が続き、人手不足が頭の痛い問題。選手層の薄さ解消と入賞を目標に来年の大会に臨む。

8 同志社大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 17 回目 / 過去最高順位 2 位 |
| 登録人数 | 23 名 集計対象 15 名 |
| NET | 76.63 |

23 名参戦北京、日本も

前回大会の17位から8位へと進む好成績。「同志社集中」と念じながら、1打1打に集中した結果、だという。ただし、日本や北京から参加した選手もあった中で5位を逃したことが「非常に残念」と悔いは残る。「来年こそは神のご加護も受けながら、表彰台にてカレッジソングを熱唱します」とミッション校らしいコメントが印象的。

9 京都大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 16 回目 / 過去最高順位 2 位 |
| 登録人数 | 22 名 集計対象 14 名 |
| NET | 76.64 |

大きく順位戻す

2年連続で20人超の選手を送り込む「マンモス校」となった。順位も昨年から12位上げて7年ぶりにベスト10入りを果たし、躍進。「大叩きしてもハンデホールと割り切り、辛抱強く回った結果、神様が味方をしてくれた。」と分析。悲願は第2回大会以来の応援歌「新生の息吹」大合唱。このまま勢いに乗れるか。

10 関西学院大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 16 回目 / 過去最高順位 5 位 |
| 登録人数 | 21 名 集計対象 13 名 |
| NET | 76.77 |

ベスト口賞もハンデ不遇

第3回を除いてすべての大会に出場している関西の古豪。今回は21人、「とても仲良くまとまったチーム」で参戦し、ベスト口賞も獲得した。存在感を見せつけた上で前回に続きトップ10入りしたが、ネット順位発表の瞬間は「むっちゃショック」。ハンデに恵まれなかったのが残念という。次回は「5位入賞!」が目標。

11 早稲田大学



| | |
|------|-------------------|
| 出場 | 17 回目 / 過去最高順位 優勝 |
| 登録人数 | 47 名 集計対象 28 名 |
| NET | 76.84 |

最大人数参戦の強豪

第1回以来優勝4回の強豪校。11位ながら「過去最低順位に甘んじたのは悔しいとしか言いようがない」。今回は「2年連続で校歌を歌えなかったうっぶんを来年こそ爆発させたい」と雪辱に燃える。毎回多数の選手が出場するのも特徴で、今大会最大の47人を送り込んだ。「最大人数で優勝」を実現するため、稲門卒業生募集。

■12. 女子大学連合



| | |
|------|-----------------|
| 出場 | 3回目 / 過去最高順位 6位 |
| 登録人数 | 5名 集計対象 5名 |
| NET | 77.04 |

唯一の女性チーム奮闘

最小人数の5人で出場し、「チーム全員が一丸となって自分のベストを尽くしました。良い出来です」と評価。「ダブルベリアにうまくはまり、ハンデに助けられた」と語るも、初出場で6位、今回もガングロ賞、アサグロ賞など受賞した。「次回はメンバーを増やし、優勝を狙います!」との意気込みが現実になる可能性十分だ。

■15. 大阪・大阪外国語大学



| | |
|------|-----------------|
| 出場 | 1回目 / 過去最高順位 7位 |
| 登録人数 | 24名 集計対象 15名 |
| NET | 77.36 |

初の合同参戦

07年に大阪大学と大阪外国語大学が統合して以来初めて1つのチームとして参戦。大阪外語は16回、阪大は6回の参加歴を持つ。今回は24人の選手が参加し、大変盛り上がったとの印象。グロス8位という成績からネット順位にも期待していたが、残念な結果に。第18回大会は「両校OBの結束をさらに強化して上位進出を果たしたい」。

■13. 東京外国語大学



| | |
|------|------------------|
| 出場 | 15回目 / 過去最高順位 優勝 |
| 登録人数 | 8名 集計対象 7名 |
| NET | 77.20 |

優勝経験校、上位に復帰

第16回大会で下馬評を覆し優勝をさらった後、第18回では32位に急降下。今回は奮起を期して参戦し、悪天候を味方につけたメンバーもあり、「少数精鋭の8人中スコア80台、90台のスコアが多くダブルベリアもうまくはまって上位に復帰でき、満足の結果となった」。次回はメンバーを増やし6位から10位を狙うとのこと。

■16. 信州大学



| | |
|------|------------------|
| 出場 | 6回目 / 過去最高順位 16位 |
| 登録人数 | 6名 集計対象 6名 |
| NET | 77.40 |

“ほふく前進”も成果あり

8人と少人数ながらも、順位を昨年より2つ進め、過去最高をマーク。「ほふく前進と言えど、前に進めたことがよかった」「全員が雨の中、チームのためよく粘ったことは◎」と評価する。第18回大会は5位以内に入賞し、寮歌斉唱することを目標としている。選手層を厚くするため、「これから1年は上海の日系企業行脚」だそうだ。

■14. 中央大学



| | |
|------|------------------|
| 出場 | 13回目 / 過去最高順位 4位 |
| 登録人数 | 23名 集計対象 14名 |
| NET | 77.29 |

史上最大人数で参戦

「各地から国境も越えて過去最高の23人が集結、感謝大家」と「マンモス校」体制で参加した。順位は前回より2つ下がってしまったものの、「課題が明確になった」と次回に向けて意欲はおう盛。第10回大会以来2ケタの順位が続いているが、「来年は校歌を歌うぞ絶対に歌うぞ」との思いが結果に通じるか。

■17. 明治大学



| | |
|------|------------------|
| 出場 | 14回目 / 過去最高順位 5位 |
| 登録人数 | 20名 集計対象 13名 |
| NET | 77.40 |

次回はトップ10を

総勢20人で参戦し、「全体的にいつもの大会よりも調子が良かったよう」との感想通りに昨年より順位を3つ上げた。「雨のなかの大会運営、懇親会に大変感謝」しつつも、「例年、懇親会席順が後方なのが悔しい」。第12回以来2ケタ順位が続く、次回こそ「トップ10、あわよくばその上を」とスポーツ強豪校の矜持がのぞく。

18. 立命館大学



| | |
|------|-----------------|
| 出場 | 9回目 / 過去最高順位 3位 |
| 登録人数 | 11名 集計対象 8名 |
| NET | 77.68 |

チーム力底上げ課題

前回の18位から順位を下げてしまったのは残念だが、「この成績が現時点での実力なので、個々のレベルアップを目指す」と冷静に受け止める。第12回から14回にかけて5位、8位、3位と上位に付けているチーム。巻き返しに向けて、来年はまず「チーム力を底上げして、トップ10に入れるよう頑張る」のが目標だ。

19. 立教大学



| | |
|------|------------------|
| 出場 | 16回目 / 過去最高順位 2位 |
| 登録人数 | 9名 集計対象 7名 |
| NET | 77.69 |

強豪復活を狙う

「全般的にグロススコアは厳しい状況でしたが、ハンパに助けられた感じ」とのコメント通り昨年からの順位を5つ上げた。とはいえ、過去2回2位を獲得し、優勝に迫ったチームとしては物足りない結果。第18回大会に向けて「練習、練習、再練習!!」と意気込みを強く示す。第2回以降連続出場の意地を見せるか。

20. 上智大学



| | |
|------|------------------|
| 出場 | 14回目 / 過去最高順位 3位 |
| 登録人数 | 12名 集計対象 9名 |
| NET | 77.76 |

急落後の振り返り見込む

「全員が頑張った」ものの、昨年からの順位は大きく落としてしまった。ノーマーク校の扱いだった上智が第15回、第16回と連続で3位を記録し、今回の成績に注目が集まっただけに、結果に対しては「無念」の一言。次回大会では「ベスト10への振り返りを狙う」と抱負。2年連続で表彰台の勢いで進む。

21. 東京大学



| | |
|------|------------------|
| 出場 | 17回目 / 過去最高順位 2位 |
| 登録人数 | 13名 集計対象 9名 |
| NET | 77.80 |

“ギネス級”の興奮

過去4大会は「実力以上の力を発揮して」10位以内に付けてきたが、「今回は実力を上回る力が出ず」21位の「無難な結果」となった。大会については「この規模のゴルフコンペはきっとギネス級。演出も年々グレードアップし、大変楽しい時間を過ごせた」と満足。次回第18回はベスト10への復帰を目標に掲げる。

少数精鋭? 「マンモス校」?

団体スコアのみで競い、個人成績は一切問われない大学対抗ゴルフ。その順位はプレーヤー全員のスコアをダブルペリアにかけてネットスコアを算出し、各チームの「ネットスコア上位5人+α人の集計対象者の平均ストロークにより決まる。参加人数の異なりを平準化するための「+α」計算式は次の通り

集計対象人数 = $5 + (\text{参加者数} - 5) \times 0.5$ (小数点切り上げ)
例: 参加者12人なら $5 + (12 - 5) \times 0.5 = 9$

各校のコメントをまとめた感じでは少人数チームは上位に付けてもいる一方、帰任などでメンバー確保に苦労の印象。20人以上の大規模チームでは勝つことはもちろんだが、楽しむことを重視して、できる限り多くのメンバーを集めているようだ。戦略はそれぞれだが、1年間練習を重ねまた来年も大学対抗を楽しんでほしい。



来年に向け一本締めで閉幕

28 麗澤大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 5 回目 / 過去最高順位 28 位 |
| 登録人数 | 5 名 集計対象 5 名 |
| NET | 79.28 |

着々歩み進める

第13回から出場の比較的新しいチーム。今回は5人での参加。大叩きすると直接チームのスコアに跳ね返る緊張と共にプレーし、4年ぶりブービーの恐怖というプレッシャーもかかったが、「これまでになく全員が安定したスコアで回れた」。次回はまずメンバーを揃えるのが切実な課題。「念のため校歌も再練習する」そう。

29 青山学院大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 12 回目 / 過去最高順位 2 位 |
| 登録人数 | 12 名 集計対象 9 名 |
| NET | 79.51 |

隠しホールに泣いた

グロスで11位の好成績。チーム全員が健闘し、上位入りの可能性もありと期待を抱いていたところ、蓋を開けると、29位という結果に。ハンディキャップと大学対抗ゴルフの「名物」ダブルベリアに泣く結果となった。第10回大会では優勝まであと一步に迫り、3年前にも4位に入賞の経歴を持つチーム。次回はベスト10を狙う。

30 西南学院大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 2 回目 / 過去最高順位 19 位 |
| 登録人数 | 6 名 集計対象 6 名 |
| NET | 79.57 |

雨に泣かされた九州男子

九州大学と同様に前回大会以来、九州連合からスピンオフし、単独校として出場。今回はチームを「雨に弱い九州男子」と評すように苦戦したが、「最終的にブービーを免れ、大変盛り上がった」「今後は雨でもへこたれず頑張る」との感想。九州大学の表彰では同校、九州連合と一緒に熱唱した。「来年は特訓して捲土重来を期す」。

31 名古屋大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 6 回目 / 過去最高順位 13 位 |
| 登録人数 | 13 名 集計対象 10 名 |
| NET | 79.66 |

東海の存在感見せた

陣容は前回から3人増え、「駐在員が減少する中、13名で参加できたことがうれしい」と感想。雨にもかかわらずそれぞれのメンバーが奮闘できたと話す。第4回大会から次の参戦第14回まで間が空いたが、その後は連続で出場。今大会では東海地区から出場した唯一のチームとして存在感を見せた。来年は10位台に入るのが目標。

32 大阪市立大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 5 回目 / 過去最高順位 14 位 |
| 登録人数 | 8 名 集計対象 7 名 |
| NET | 80.03 |

必達目標は巻き返し

昨年からの順位を3つ落とし、「非常に残念」と感想。ネット平均80台の結果を真摯に受け止めるという。次回に向け、毎月の練習会を行う計画で、グロス100を切るメンバーを増やし、個人のレベルアップと同時にチーム全体の底上げを目指す。上位との差は決して大きくないとの見方。「必ずや巻き返しを図りたい」と意気込む。

33 日本大学



| | |
|------|---------------------|
| 出場 | 13 回目 / 過去最高順位 10 位 |
| 登録人数 | 8 名 集計対象 7 名 |
| NET | 80.06 |

来年は上位半分を

昨年の順位を上回ろうと各メンバーが目標スコアを設定。大会前には決起集会を開いてチーム一丸で当日に臨んだが、順位は変わらず「無念の結果」に。日本有数の巨大校も大学対抗ゴルフの選手層には懸念があり、メンバーの増員も課題となる。個人のレベルアップと同時に選手集めにも力を入れ、次回は上位半分を照準に入れる。

■34■ 一橋大学



| | |
|------|-------------------|
| 出場 | 17 回目 / 過去最高順位 優勝 |
| 登録人数 | 11 名 集計対象 8 名 |
| NET | 80.30 |

古豪復活いつに

前回の15位から大きく順位を落としてしまった。第1回以来の連続参加校で第7、第8回大会では2校目となる連覇を成し遂げたが、ここ最近の順位は元気に欠ける印象。今回は11人が参戦したが、2連覇の当時と比べて選手の数減ったことが低調の原因と分析している。来年は15人以上の選手を揃え、上位入りを目指す。

■35■ 横浜国立大学



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 11 回目 / 過去最高順位 3 位 |
| 登録人数 | 7 名 集計対象 7 名 |
| NET | 81.80 |

ブービー脱出

順位発表の瞬間、歓喜に沸いた。大会を総括しての感想は「良かった。大会を総括しての感想は「良かった。ブービーでなくて、とにかく良かった」。前回優勝校の神戸大学とともに幹事校、司会として成績発表の場を盛り上げた立役者だったが、幹事の仕事は大変な責任だったようだ。次回大会は「楽しく参加できたら」と肩の荷が下り、ほっと一言。順位も上向くか。

■36■ 獨協・成城東京私大連合



| | |
|------|------------------------|
| 出場 | 1 回目 / 過去最高順位 21 位(成城) |
| 登録人数 | 7 名 集計対象 6 名 |
| NET | 82.60 |

次回参加がまず目標

首都圏の大学の連合として初出場。単独での参加も獨協が2回、成城が4回と大学対抗ゴルフでは「新参」に属するチーム。「スコアは想定内」とはいうものの、5月28日の雨やシルポートの「名物」である池が多いトリッキーなコースに泣かされた。帰任者が多く次回は「出られるか」がまず問題。選手確保に忙しくなりそう。

■37■ 九州連合



| | |
|------|--------------------|
| 出場 | 11 回目 / 過去最高順位 4 位 |
| 登録人数 | 6 名 集計対象 6 名 |
| NET | 82.63 |

ブービーを回避

「2年連続で下から3位。ブービーの一つ手前で来年の幹事役を外れた安心感しかない」。人数が少ないため、出場メンバーを増やして全体のレベルアップを図り、「初心者でも救われるようにしたい」という。西南学院大学、4位入賞の九州大学との結束は強い。九州の大学同士で集まって練習し、来年は10位以内が目標だ。

■38■ 筑波大学



| | |
|------|-------------------|
| 出場 | 1 回目 / 過去最高順位 - 位 |
| 登録人数 | 6 名 集計対象 6 名 |
| NET | 83.20 |

波乱の初出場

今回初参戦ながら、次回の幹事校とすることが決定した。波乱の幕開けとなったが、「歴史ある大会に参加し大きな第一歩を踏み出した」「自立つことができ良かった」といって前向き。来年に向けて練習を積み、「東京師範高等学校から受け継ぐ宣揚歌『桐の葉』をこ披露したい」と。幹事も楽しく頑張るといふ新顔に期待だ。

■39■ 専修大学



| | |
|------|-------------------|
| 出場 | 1 回目 / 過去最高順位 - 位 |
| 登録人数 | 6 名 集計対象 6 名 |
| NET | 84.00 |

初参加校、後は上るだけ

初参加の専修大学。在上海の同窓会は昨年発足し、単独で、また明治大学との合同練習を重ねてきた。6人で参加し、全員がスコア集計の対象になるプレッシャーと天候が災いして実力を出し切れず最下位という結果に。有名プロゴルファー輩出校との自負を胸に練習量とメンバーを増やし、次回は2ランク以上のアップを狙う。